

平成29年度 平和記念式典派遣事業報告書



派遣日：平成29年8月5日(土)～6日(日)

派遣場所：広島市(広島県)



利根町

「利根町非核平和都市宣言に関する決議」

利根町には、日本人の心の奥底にすりこまれた「ふるさとの原風景」がある。初めて訪れた人は懐かしさを感じずにはいられない。

天の雲を映す水田が、青く鮮やかな一面の田となり、やがて黄金色となって風にさざめく。

先人たちが大切に守り継いできた田園風景と日々の暮らしが調和した、美しくかけがえのないふるさとの姿がここにある。

このすばらしい郷土の中で、平和で安心して暮らせることは利根町民すべての願いである。

このような私たちの願いに反し、未だ核兵器の存在は世界の平和に深刻な脅威を与えている。

世界で唯一の核被爆国である我が国は、多くの尊い生命が奪われた。いかなる理由があろうとも広島・長崎の惨禍を再び繰り返し、すべての人類にもたらしはならないことは、私たちの不変の決意であり、「非核三原則」を将来にわたり遵守するとともに核兵器の廃絶と世界の恒久平和を強く願わずにはいられない。

利根町、恒久平和の願いを新たにし、「非核平和都市」であることをここに宣言する。

以上決議する。

平成 27 年 12 月 14 日

利根町議会

目 次

1	事業の概要	1
2	派遣事業内容	2
	・参加者結団式及び保護者説明会（平成29年7月27日）	
	・広島平和記念式典派遣1日目（平成29年8月5日）	
	・広島平和記念式典派遣2日目（平成29年8月6日）	
	・広島平和記念式典派遣事業報告会（平成29年10月21日 利根中学校第11回凜明祭）	
3	参加生徒の報告	
	～平和へのメッセージ～	6
	・利根中学校3年2組 山本 竜也	
	・利根中学校3年2組 高岡 真衣	
	・利根中学校2年1組 小野 颯太	
	・利根中学校2年1組 居 関 日依梨	
	・利根中学校2年2組 小 針 陽	
	・利根中学校1年3組 稲 飯 美 咲	
4	派遣事業写真	12

◎平和記念式典派遣事業概要

(1) 目的

被爆地の広島市へ中学生を派遣し、戦争の現実、被爆の惨状等について知り、学び、考える機会を提供することにより、核兵器の廃絶及び恒久平和の重要性に対する理解を深めることを目的とする。

(2) 期 日

平成29年8月5日(土)～6日(日)

(3) 場 所

広島県 広島市

(4) 派遣事業参加者結団式及び保護者説明会

平成29年7月27日 役場 町長公室

(5) 事前学習

平成29年7月27日 役場 町長公室

(6) 参加者

利根町長	佐々木 喜 章
利根町教育長	杉 山 英 彦
利根中学校3年2組	山 本 竜 也
3年2組	高 岡 真 衣
2年1組	小 野 颯 太
2年1組	居 関 日依梨
2年2組	小 針 陽
1年3組	稲 飯 美 咲
利根中学校教員	越 智 和 恵
利根町役場総務課	高 木 隆 徳

平和記念式典派遣事業内容

◎広島平和記念式典派遣事業参加者結団式及び保護者説明会

◇平成29年7月27日（木）17：30～ 利根町役場 町長公室

○結 団 式

- ・あいさつ（町長，教育長）
- ・参加者自己紹介
- ・事業内容説明
- ・派遣団 決意のことば
- ・写真撮影
- ・行程等の説明
- ・参加生徒の心構え

○事前学習

「広島・長崎 原爆の歴史」教育委員会指導室長
（一部順不同）

利根中学校生徒代表（山本竜也君）が決意のことばを町長に伝達



参加者の写真撮影



◎広島平和記念式典派遣事業1日目

◇平成29年8月5日(土)

- 出発式 (布佐駅前) 6:30
- 移動(布佐～広島) 6:57～
- 被爆体験講話 13:30～
- 広島平和記念資料館見学, 千羽鶴奉納 15:00～
- ホテルにてミーティング 18:00～

出発式



布佐駅前



被爆体験講話



利根中学校生徒が折った千羽鶴



◎広島平和記念式典派遣事業2日目

○広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式参加

◇平成29年8月6日(日) 平和記念公園 8:00~8:45

- ・原爆死没者名簿奉納
- ・式 辞
- ・献 花
- ・黙とう・平和の鐘
- ・平和宣言(広島市長)
- ・放 鳩
- ・平和への誓い(こども代表)
- ・あいさつ
- ・ひろしま平和の歌(合唱)

○原爆ドーム・碑めぐり 9:30~

○移動(広島~布佐) 18:33~

○解散式(布佐駅構内) 20:08

黙とう



広島原爆ドーム



内閣総理大臣あいさつ



平和の鐘を鳴らす利根中学生



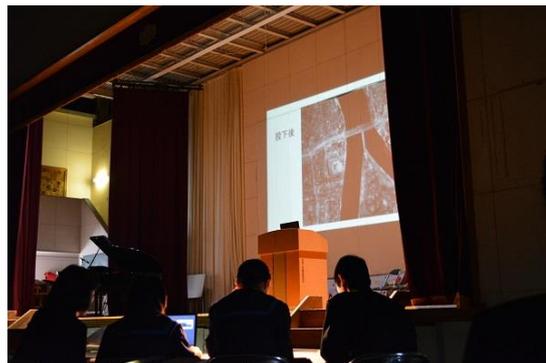
◎報告会

利根中学校第11回凜明祭

◇平成29年10月21日（土）

【広島平和記念式典参加者報告会】

- 1 広島平和記念式典参加の目的及び日程発表
- 2 広島記念式典参加者報告（映像スライドショーを含む）
- 3 「広島平和記念式典に参加して」感想発表（参加者全員）



◎参加者感想文 ～平和へのメッセージ

広島平和記念式典派遣事業に参加して

利根町立利根中学校 3年2組 山本 竜也

僕は、この事業に参加してたくさんを知りました。

まず、最初は被爆者による体験談からです。僕たちは、世良さんという被爆者の方の話を聞きました。世良さんによると、8月6日はいつもなら豆腐を買いに行くのが普通だったが、その日は寝坊してしまい、家でくつろいでいたら突然外でピカッと光り、気を失ってしまったそうです。そして、気がつくとあたり一面は地獄のようになっていたそうです。そのときは人間の焼けるにおいがただよっていたようで、世良さんはその臭いを今でも忘れられないそうです。

次に、原子爆弾から助かっても放射能による被爆はさけられないことです。世良さんによると、世良さんのお父さんが被爆してしまい、原爆投下から10年たったある日、突然死んでしまったらしいのです。この10年間は被爆していたのにも関わらず、とても元気だったそうです。放射能というのは、少しずつであるが必ず人を死なせるものだと言っていました。また、生まれてから風邪一つ引かなかった友人も、突然死が訪れたそうです。



～平和へのメッセージ～

僕は核兵器に反対です。核兵器は全く関係のないものまで傷つけます。今、世界ではたくさんの紛争や戦争が起こっています。宗教や文化の違いで起きているかもしれませんが、人間は互いに尊重し、互いに理解し合うことが出来るものです。だから僕は信じます。

この世界から核兵器や武器、その他の悪いものが消える日が来ることを。

広島平和記念式典派遣事業に参加して

利根町立利根中学校 3年2組 高岡 真衣

私はこの事業に参加してたくさんの貴重な体験が出来ました。

広島平和記念資料館では原爆の威力、被害を生々しく伝えるものが多くあり、とても衝撃的でした。特に、原爆で命を落とした子供たちの服などを見て、この服を着ていた人はどんなに苦しんだのかと思うととても胸が痛みました。

原爆が落とされた瞬間を体験した方にも今回、お話を聞く機会がありました。被爆者となってからの生活、身体への影響、原爆が落ちた瞬間などを聞きました。サイパンやグアムにリゾート感覚で行けない、精一杯運動出来る人がうらやましいという言葉が心に残りました。そして、1時間の講話を通して講師の方が言っていたのは「常に不安と隣合せ。原爆は後にも被害を残す。」ということです。

原爆は普通の爆弾と違って放射能の影響を与え、生きての間苦しみを与え続けます。絶対に使ってはいけない兵器だということを改めて感じました。



～平和へのメッセージ～

今の広島町を見ると、本当にここに原爆が落ちたのかと思うほどとてもきれいな町でした。でも、原爆の被害を受けた人たちの苦しみは永遠に消えないと思います。そんな思いを後の人たちに味合わせたいと思わないでほしいです。早くこの世界から核兵器がなくなってほしいです。

広島平和記念式典派遣事業に参加して

利根町立利根中学校 2年1組 小野 颯太

僕は、平和とは現在のようにみなが平等で、安全に暮らせる事だと思っていました。広島での平和式典に参加したり、被爆者の話を聞いたりして、平和な現在でも放射能などで苦しんでいる人がいることを知って、今は平和でも安全でもなく仮の平和なのではと思いました。

今回、原爆ドームや碑めぐりをし、整備された広島を見て、日本は他の国より苦勞をしてここまで発展したのだと気づき、日本はすごい所だと改めてわかりました。

ですが、最近では北朝鮮がミサイルを飛ばして勢力を増し、日本はアメリカと手を組んで圧力をかけようとしています。僕はそんなことはやめてほしいと思います。今でもそんな国があるので、「戦争になるかもしれない。」という言葉も聞こえてきます。もしかしたら、北朝鮮の攻撃で『第三次世界大戦』になるかもしれません。

僕は、世界全体が過去の過ちをくり返すことなく進んでいくことが大切だと思いました。



～平和へのメッセージ～

今、世界では、まだ『核』とか『戦争』という話題が出ています。でも、一人一人が喧嘩等で争うことを減らしていけば、大きな争いにはならないと思います。だから、一人一人がその事を意識して生活していくべきだと思います。そして、その意識を世界に広げていけば、世界が平和になっていくと思います。

広島平和記念式典派遣事業に参加して

利根町立利根中学校 2年1組 居関 日依梨

私は、記念式典に参加して、たくさんのことを学びました。

まず、戦争の怖さです。今までも戦争が怖いということは分かっていたけれど、本当に被爆した人の講話を聞いたり、資料館を見学したりすることで、より怖さが分かりました。現実とは思えないほど悲惨な出来事、実際に被爆したビンを見たり、触ったりして、「こんなことは味わいたくないなあ。」と思いました。また、「これからの子供たちなどにこんな経験はしてほしくない。」とも思いました。

そして、次は平和の大切さです。広島に原爆が落ちる8月6日までは、みんな普通の生活をしていたのに、原爆一つでそれまでの生活が一変しているのを見て、私達が今こうしてあたりまえに過ごせている毎日のありがたみが分かりました。だから、これからは平和に過ごせる毎日に感謝して生きていきたいと思えます。



～平和へのメッセージ～

戦争はとても怖くて、する必要がないものです。だから、署名活動などがあったら積極的に参加していきたいです。また、第二次世界大戦など戦争のことを勉強して、より詳しくなって、平和の大切さをたくさんの人に伝えていきたいです。そして、これからも毎日元気に、平和への思いを忘れず過ごしていきたいです。

広島平和記念式典派遣事業に参加して

利根町立利根中学校 2年2組 小針 陽

僕は、広島での平和記念式典に参加して、原爆の恐ろしさを知りました。

原爆は、多くの死者を出すだけでなく、被爆した人や被害にあった人たちの心に大きなキズを残したのだということがわかりました。さらに、僕は原爆が使用されたことによって、平和への動きが強まったと思いました。原爆の恐ろしさを知る事によって、人々は平和の大切さに気づいたのだと思います。世界で、日本が唯一原爆を落とされた国だからこそ、原爆の恐ろしさを伝えられるのだと思います。

僕が平和記念式典で感じたことが、もう一つあります。それは、平和に対する動きのことです。原爆の恐ろしさを知った日本は、その後平和への動きを強めていきました。広島の復興が始まってから核禁止運動も始まりました。それを知って、僕は人々の平和に対する思いの強さを感じました。

このように原爆が落とされる事によって平和への気持ちが強まりました。ですが、もし原爆が落とされなかったら？もし第二次世界大戦に日本が勝っていたら？と考えると原爆が必要だったようにも思え、複雑な気持ちになります。しかし、理由は何であれ、平和は今の世界に必要なだと思いました。



～平和へのメッセージ～

平和の意味は「おだやかで変わらないこと」また「戦争がなくて世の中が安穏であること」です。今すぐ僕が戦争をなくすことは出来なくても、日々の日常を少しずつおだやかには出来ると思います。そこから少しずつ「平和」に近づけていきたいと思います。

広島平和記念式典派遣事業に参加して

利根町立利根中学校 1年3組 稲飯 美咲

被爆者の方のお話を聞いて私が思ったことは、戦争はたくさんの人にたくさん
の被害をあたえていてとても怖いものだということです。

被爆者の方の話で特に気になったのが、原爆を落とされた時と原爆症でつら
い時期があったというところです。「原爆を落とされた時に、爆風で飛ばされ
て突き刺さったガラスで血だらけになりながら山へ逃げ、毎日焼きただれた所
を歩いた。そのときの死体が焼かれた臭いを今でも忘れられない。」と聞き、
とても苦しい生活を送っていて、自分では絶対に耐えられないなあと思いま
した。

そして、原爆を落とされてそれだけでも大変なのに、原爆症で通っていた学
校でのけものにされてしまったと聞いて、被爆者の気持ちがわからない人達は
とてもひどいなあと思いました。原爆症で、学校の先生には「学校に来るな」
と言われ、親には「学校へ行け」と言われ、ヤミ市や公園でブラブラしていた
という話では、原爆によって他の人にも相手にしてもらえないという辛さがと
ても苦しかったのだろうなあと感じました。



～平和へのメッセージ～

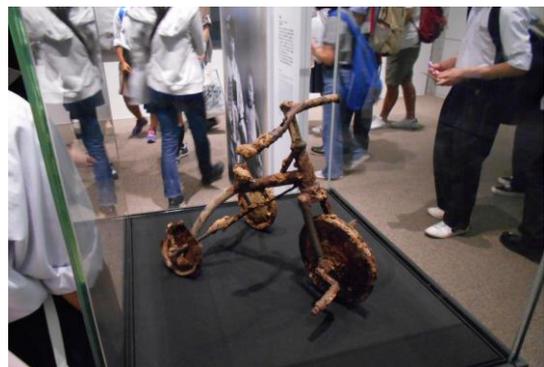
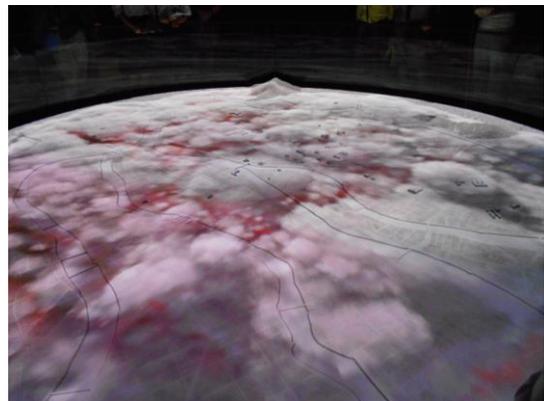
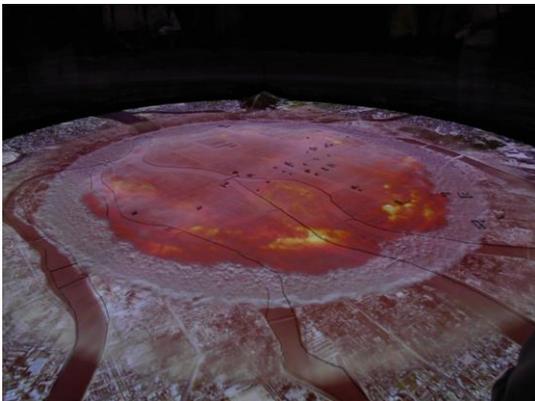
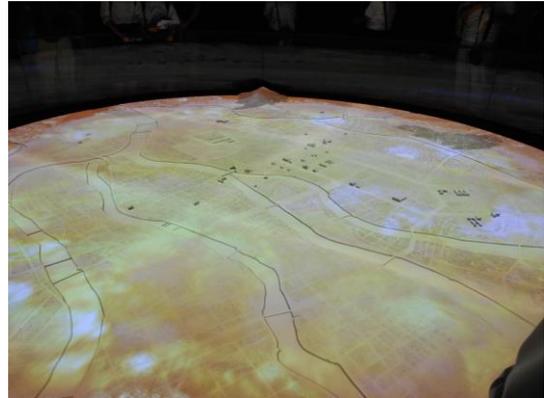
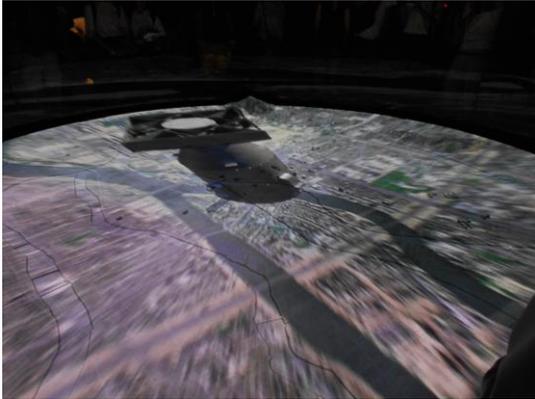
これからは、この原爆を落とされた8月6日のようにならないよう署名活
動などに協力し、戦争をしない社会になってほしいなあと思います。

もう一度平和式典に臨める機会があれば、参加したいです。

◆平和記念式典派遣事業写真







「助けて」
「水をください」

動く気力もない
母親の胸にすがる幼児。

「目を開けて、目を開けて」

子どもの名前を呼び続ける
半狂乱の母親。







◎編集後記

編集にあたり、72年前の8月6日午前8時15分に広島に原子爆弾が投下され、まちを一瞬にして破壊し、多くの人々の命が奪われました。

また、幸いにも生き延びてきた人々も放射線の後遺症に恐怖を感じ、世間から差別され、心身ともに負った傷は癒されることはありません。

今回、利根町では、世界の中でも唯一の被爆国である日本において、戦争を体験した高齢者も年々減少していることから、戦争の現実、被爆の惨状について、今後未来のある中学生に知り、学び、考える機会を提供し、戦争のない社会を実現するために実施した事業です。今回参加された生徒達においては、今まで教科書で学ぶ以上のことを学習し、それぞれに感じることもあったと思います。

最後に、今回参加していただいた利根中学校の生徒、保護者の方々、教育委員会、学校関係者の方々、また、広島市の関係者の皆様のご協力に感謝し、派遣事業報告書が発行できたことに、お礼を申し上げます。

平成29年度 第1回

利根町平和記念式典派遣事業

- 編集** : 利根町役場 総務課
茨城県北相馬郡利根町布川 841 番地 1
TEL 0297-68-2211 FAX 0297-68-7990
- 協力** : 利根町教育委員会・指導室
利根町立利根中学校
- 発行** : 平成30年1月

